

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	町田デザイン&建築専門学校
設置者名	学校法人 東京町田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
建築専門課程	建築工学科 (3年制)	夜・通信	18単位 (270時間)	10単位 (240時間)	
	建築デザイン科 (2年制)	夜・通信	18単位 (270時間)	7単位 (160時間)	
	インテリアデザイン科 (2年制)	夜・通信	15単位 (270時間)	7単位 (160時間)	
デザイン専門課程	グラフィックデザイン科 (3年制)	夜・通信	11単位 (270時間)	10単位 (240時間)	
	イラストレーション科 (2年制)	夜・通信	8単位 (300時間)	7単位 (160時間)	
	Web・CGアニメーション科 (3年制)	夜・通信	10単位 (255時間)	10単位 (240時間)	
	CG・アニメーション科 (3年制)	夜・通信	12単位 (315時間)	10単位 (240時間)	
	コミックイラスト・マンガ科 (2年制)	夜・通信	8単位 (180時間)	7単位 (160時間)	
建築専門課程	二級建築士受験科 (2年制)	夜・ <u>通信</u>	7単位	4単位	
	一級建築士受験科 (3年制)	夜・ <u>通信</u>	7単位	6単位	
<p>(備考)</p> <p>*デザイン専門課程のWeb・CGアニメーション科は令和8年度よりCGアニメーション科に学科名を変更。現況は2・3年生のみ在籍。新入生はCG・アニメーション科に在籍。</p> <p>*Web・CGアニメーション科「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」は令和7年度を記入。</p> <p>* ()内の数字(○時間)は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している。</p>					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開 https://www.mdc.ac.jp/koukai
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	町田デザイン&建築専門学校
設置者名	学校法人東京町田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

町田デザイン&建築専門学校ホームページにおいて、理事名簿を公表している。 https://www.mdc.ac.jp/koukai/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	一級建築士 建築事務所会長	2023.12.26 ~ 2026.12.25	教育面における経験から、教育内容・カリキュラム・学科編成等について教育的知見がある。
非常勤	元大学医学部兼担教授	2023.12.26 ~ 2026.12.25	教育面における経験から、教育内容・カリキュラム・学科編成等について教育的知見がある。
非常勤	大学名誉教授	2023.12.26 ~ 2026.12.25	教育面における経験から、教育内容・カリキュラム・学科編成等について教育的知見がある。
非常勤	企業代表取締役社長	2025.6.7 ~ 2028 定時評議員会終結時	教育面における経験から、教育内容・カリキュラム・学科編成等について教育的知見がある。
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	町田デザイン&建築専門学校
設置者名	学校法人 東京町田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>【作成について】</p> <p>アドミッションポリシーおよび学科ごとのディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを反映させた授業ごとの前期後期のシラバスを作成。</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準を明確に表記している。シラバスは校内共有フォルダにて関係者間で確認できるほか職員室にていつでも閲覧可能。</p> <p>ホームページでの公開を計画している。</p> <p>【時期について】</p> <p>翌年度の講義予定(授業計画)1月～2月に担当教員が作成し、(通信制については学科の講師会で開示)2月末の理事会時の議案にて翌年度の事業計画が承認され決定する。3月末に翌年度分のシラバスをHP上に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.mdc.ac.jp/koukai/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>前期(7月)・後期(1月)においてそれぞれ期末試験または期末制作作品、およびそのプレゼンテーション等により成績評価している。成績評価は優・良・可・不可と表記され、不可は単位未修得となる。(優100点～85点 良84点～65点 可64点から50点)と定め単位認定している。</p> <p>試験、作品での講師評価に加え授業出席状況も成績に加味される。すべて出席した学生は皆勤、12時間以内の欠時は精勤とし卒業時に褒賞対象としている</p> <p>以上の評価学修成果を進級卒業判定会議にて厳格かつ適正に評価し単位認定している。</p> <p>学生便覧等で公表している。</p> <p>通信制(上記との相違点)</p> <p>前期(6月・9月)・後期(12月・3月)においてそれぞれ中間試験・期末試験、期末課題提出およびそのプレゼンテーション、年間120単位時間が義務付けられているスクーリングの出席率により成績評価している。また、前期・後期を通じてのeラーニング視聴率も成績に加味している。試験、作品での講師評価に加えグループ討議により第三者の評価も成績に加味される。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績判定において期末試験、作品制作評価以外にも日々の授業内において出欠状況、授業課題への取り組み姿勢も成績判定に反映させている。</p> <p>人間力・社会人基礎力についてもピア教育※を推進し、協同で取り組む課題を通じて社会人に必要な協調性やコミュニケーション力がついているかなども考慮して総合的な成績評価を行っている。更に入学時の学習状況からの個々の成長率を成績に反映している。</p> <p>以上で学修成果を判定会議にて厳格かつ適正に評価し単位認定している。</p> <p>学生便覧等で公表している。</p> <p>※ピア・カウンセリング教育・・・学生同士が学び合う「仲間教育」</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.mdc.ac.jp/koukai/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業要件は、2年制62単位以上、3年制93単位以上の必要単位数の習得・卒業制作の提出公開 および卒業認定会議において認定された学生。</p> <p>令和7年度以前入学者は2年制1700時間以上の出席時数、3年制2550時間以上の出席時数を適用とする。</p> <p>卒業制作については、卒業制作要綱に基づき、学科の卒業制作テーマ、各自の研究テーマをきめて企画書を提出。卒業制作担当教員（または卒業制作ゼミ担当）指導の下作成する。</p> <p>企画シート・中間チェック・提出チェックを通じて産学ネットワーク展にて公開・プレゼンテーションを行い評価している。</p> <p>通信制（上記との相違点）</p> <p>卒業要件は、2年制40単位の取得、3年制53単位の取得が認定されることが条件となる。これにスクーリングへの出席率、eラーニングの視聴率、課題の提出状況等を加味して単位認定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.mdc.ac.jp/koukai/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	町田デザイン&建築専門学校
設置者名	学校法人 東京町田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月下旬に最新情報をHP公開している。 https://www.mdc.ac.jp/koukai/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	建築専門課程	建築工学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	173単位（2790 単位時間）	69(1116 単位時間)		104(1674 単位時間)		
生徒総定員 数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	26人	5人	1人	8人	9人		
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和7年度以前入学者に適用							

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 （概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準

(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 全授業の内、3～4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		建築専門課程	建築デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	117単位(1905 単位時間)	47(762 単位時間)		70(1143 単位時間)		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		36人	10人	1人	9人	10人	
(備考) ()内の数字(○単位時間)は、令和7年度以前入学者に適用							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 全授業の内、3～4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		建築専門課程	インテリアデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	120単位(1980 単位時間)	48(792 単位時間)		72(1188 単位時間)		
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		32人	3人	1人	9人	10人	
(備考) ()内の数字(○単位時間は、令和7年度以前入学者に適用)							

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 全授業の内、3~4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	106単位(2865 単位時間)	26(716 単位時間)		80(2149 単位時間)		

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	84人	2人	1人	16人	17人
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和7年度以前入学者に適用					

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 全授業の内、3~4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン専門課程	イラストレーション科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	64単位(2010単位時間)	16(502 単位時間)		48(1508 単位時間)		
				単位時間		単位時間	単位時間
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	49人	0人	1人	7人	8人		
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和7年度以前入学者に適用							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等 (概要) 全授業の内、3~4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン 専門課程	Web・CGアニメーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類			
	昼	2895 単位時間/単位		講義 724 単位時間/単位	演習 単位時間/単位	実習 2171 単位時間/単位	実験 単位時間/単位
3年				単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	30人	1人	1人	6人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準 (概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照

学修支援等
(概要) 全授業の内、3～4 回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		デザイン 専門課程	CG アニメーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	102単位	25 単位		77 単位		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	14人	1人	1人	5人	6人		
(備考)							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 全授業の内、3～4 回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	デザイン 専門課程	コミックイラスト・マ ンガ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	77単位(1920 単位時間)	19(480 単位時間)	単位時間	58(1440 単位時間)	単位時間	単位時間
生徒総定員 数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	63人	1人	3人	7人	10人		
(備考) () 内の数字 (○単位時間) は、令和7年度以前入学者に適用							

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 全授業の内、3~4回グループ学習の手法を取り入れ、コミュニケーション力、社会人基礎力の育成と共に仲間意識を高める「ピア教育」を積極的に取り入れている。また、随時、担任教員による相談受付や面談、進路指導、学外教育活動の紹介、各種プログラム等を設定し、意欲ある学生の積極的な学修支援をしている。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	建築専門課程	二級建築士受験科	×				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	40単位	24 単位	単位時間 /単位	16 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	219人	0人	1人	11人	12人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法 （概要） 成績判定において中間試験・期末試験、課題制作評価以外にも、スクーリングの出欠状況、eラーニングの視聴率も成績判定に反映させている。通信制の受験資格取得を目標とする学科のため、建築士試験へのモチベーションを高めるように、目標を明確にし、学生に折に触れて情報を伝達している。以上で学修成果を判定会議にて厳格かつ適正に評価し単位認定している。上記の内容をHP、学生便覧、入学説明会で公表している。
卒業・進級の認定基準 （概要） 卒業要件は、2年制40単位以上の単位数、スクーリング120単位時間の80%以上の出席数、eラーニングの視聴率80%以上、課題の提出および卒業判定会議において認定された学生が卒業を認められる。卒業要件についても、入学説明会、オリエンテーション、HPで事前に公表し周知徹底を図っている。
学修支援等 （概要） 働きながら、大学や短大に通いながら学習を続ける受講生のために、スクーリングの都合が合わない学生のための補講を積極的に活用。進級、卒業の比率も他の大学等の通信制と比較して高い率を保持している。学修に関しても、スクーリング時の講師の指導の充実、eラーニング上からの多様な質問の受付、欠席等のフォローも事務局において丁寧に対応している。また、卒業後の資格取得に関しても、資格学校と提携して安価に対策講座を提供している。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	建築専門課程	一級建築士受験科	×				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	53単位	32 単位	単位時間 /単位	21 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
105人	29人	0人	1人	11人	12人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>(概要)</p> <p>様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績判定において中間試験・期末試験、課題制作評価以外にも、スクーリングの出欠状況、eラーニングの視聴率も成績判定に反映させている。通信制の受験資格取得を目標とする学科のため、建築士試験へのモチベーションを高めるように、目標を明確にし、学生に折に触れて情報を伝達している。以上で学修成果を判定会議にて厳格かつ適正に評価し単位認定している。上記の内容をHP、学生便覧、入学説明会で公表している。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>卒業要件は、3年制53単位以上の単位数、スクーリング120単位時間の80%以上の出席数、eラーニングの視聴率80%以上、課題の提出および卒業判定会議において認定された学生が卒業を認められる。卒業要件についても、入学説明会、オリエンテーション、HPで事前に公表し周知徹底を図っている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>働きながら、大学や短大に通いながら学習を続ける受講生のために、スクーリングの都合が合わない学生のための補講を積極的に活用。進級、卒業の比率も他の大学等の通信制と比較して高い率を保持している。学修に関しても、スクーリング時の講師の指導の充実、eラーニング上からの多様な質問の受付、欠席等のフォローも事務局において丁寧に対応している。また、卒業後の資格取得に関しても、資格学校と提携して安価に対策講座を提供している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
120人 (100%)	1人 (0.8%)	92人 (76.7%)	27人 (22.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>建築デザイン科、インテリアデザイン科は主に建築業界(建設会社・設計事務所等)に就職。グラフィックデザイン科、イラストレーション科、Web・CGアニメーション科は広告制作・デザイン・印刷業界(広告制作会社・デザイン事務所・印刷関連等)、ゲーム業界、アニメーション・3DCG・映像制作等に就職。それ以外では製造業・接客業・営業・流通業界等に就職をしている。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>全学科必須科目として就職指導授業を1年間通して実施し、業界研究や就職試験対策(面接・筆記等)や面接練習などを行っている。 また個別指導を重視し、就職先が決定するまで各学科担任とキャリアセンターの先生が学生一人ひとりと個別面談や個別指導を行っている。</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 資格・検定等は各学科の授業にて行っている。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
641人	46人	7.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>昼間部専門課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調不良・病気等による(精神的疾患を含む) ・学業不振・修学意欲低下による ・通学困難・起床困難等の学校生活不適應による ・家庭の経済的な理由による ・家庭の諸事情による ・進路変更による <p>通信教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の多忙によるスケジュール的に困難な事情による ・学業不振・修学意欲低下による ・体調不良・病気等による(精神的疾患を含む) ・進路変更による 		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>・都度担任及び校長、教育部長による個人面談、担任及び教育部長による保護者面談やカウンセラーによるカウンセリングを通し、修学上の不安事項について相談を受け付けている。</p> <p>進路変更希望者に対しても同様である。また、経済的な理由の場合においても学費の延納、分納制度等の措置を紹介すると共に低金利の教育ローン等の紹介をしている。また、進級時において学習成果向上奨学金制度(昼間部のみ)を設け、対象となる学生に対し授業料を減免する等、出来得る限りのドロップアウト防止に努めている。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築工学科 (3年制)	150,000 円	740,000 円	405,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 140,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
建築デザイン科 (2年制)	150,000 円	740,000 円	405,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 140,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
インテリア デザイン科 (2年制)	150,000 円	740,000 円	405,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 140,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
グラフィック デザイン科 (3年制)	150,000 円	740,000 円	375,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 110,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
イラストレーショ ン科 (2年制)	150,000 円	740,000 円	375,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 110,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
CGアニメーショ ン科 (3年制)	150,000 円	740,000 円	375,000 円	2026 年度～学科名変更 2・3 年生は (旧「Web・CG アニメー ション科」) その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 110,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
コミックイラスト ・マンガ (2年制)	150,000 円	740,000 円	405,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 240,000 円、実習費 140,000 円、学 級費 20,000 円、後援会費 5,000 円
二級建築士受験科 (2年制・通信)	30,000 円	360,000 円	55,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 35,000 円、実習費 20,000 円
一級建築士受験科 (3年制・通信)	30,000 円	360,000 円	55,000 円	その他内訳：施設設備・管理費 35,000 円、実習費 20,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・学費の延納及び分納制度 ・学費等に関する個別対応実施 ・学習成果向上奨学金制度 (昼間部のみ) 				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HPに公開している。 https://www.mdc.ac.jp/koukai/		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者として、関係企業、高等学校校長、卒業生を含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容、学校運営への評価・指摘・意見を頂いている。学内会議や理事会評議員会でも報告し、学園の改善に取り組んでいる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
設計会社 役員	令和7年4月1日～令和9年3月31日	企業・卒業生
高等学校 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日	学校
建設資材会社 役員	令和7年4月1日～令和9年3月31日まで	企業
就職支援会社 役員	令和8年5月1日～令和9年3月31日まで	企業
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.mdc.ac.jp/koukai/		
(備考)		
第三者評価は未実施であり、令和9年ないし令和10年に実施予定であるため、上記表中の第三者評価に係る項目は、昨年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 町田デザイン&建築専門学校ホームページで公開している https://www.mdc.ac.jp
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113320900037
学校名 (〇〇大学 等)	町田デザイン&建築専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 東京町田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		88 人 (40人)	85 人 (36人)	88 人 (40人)
内 訳	第Ⅰ区分	19 人	20 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅱ区分	14 人	17 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	- 人	- 人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	13 人	
区分外 (多子世帯)	14 人	17 人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0 人 (0人)
合計 (年間)				88 人 (40人)
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 <small>（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当）</small>	0人	0人	-人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	-人	-人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	-人	0人
計	0人	-人	-人

（備考）
「右以外の大学等」欄には修業年限3年の学科・コースの人数を、「短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）
、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）」欄には修業年限2年の学科コースの人数を、それぞれ記入。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人
前半期	0人
後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	- 人	0 人	- 人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0 人	- 人	- 人
GPA等が下位4分の1	- 人	- 人	- 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	- 人	- 人	- 人
計	- 人	- 人	- 人
(備考) 「右以外の大学等」欄には修業年限3年の学科・コースの人数を、「短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）」欄には修業年限2年の学科コースの人数を、それぞれ記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。